

語学以外の専門分野で日本語を使って
仕事をしている外国人を紹介する

にほんご ハローワーク

Q1: 来日してから、現在のお仕事をされるにいたった経緯を教えてください。

中国の大学を卒業後、政府の派遣で北海道大学大学院に留学し、工学博士号を取りました。博士号を取る直前に天安門事件が起これ、帰国を延ばして日本のソフトウェア会社に就職しました。でも、この会社がすぐに倒産してしまい、仕方なく、学生時代に開発した土木解析ソフトを売ってみたら、よく売れて、5年間で7億円の利益を上げました。その後、会社経営をする中で、日本企業の営業のあり方に疑問を持つようになり、より合理的かつ効率的な営業活動を可能にするソフトとサービスを開発し、販売するようになりました。

Q2: 日本語は、どのようにして勉強したのですか？

日本語は来日前に3カ月ほど、「お名前は何ですか?」といった程度のことを習っただけです。大学院への留学ですから、基本的に授業は英語で行われますので、本格的に日本語を身につけたのは日本に来てからで、主に対人関係の中で覚えていきました。

日本に来てからは、言葉で困ったことはありません。よくわからないことは、身ぶり手ぶりを使っても、確認すればいいですから。でも、言葉自体はわかっていても、意味がわからないことがあって、それが困りました。

例えば、大学院にいたときのことで、日本人の先輩の家に遊びに行き、夕食後、先輩の奥さんから風呂に入っていくよう勧められました。湯船につかって体を洗い、最後に風呂の湯を抜いて浴槽

をきれいに洗って出てきました。ところが、奥さんがお風呂のお湯がなくなっていることに気付いて、「宋さん、お湯どうしたの?」と聞くのです。私はその質問の意味がわからず、答えようがなかった。「お湯をどうして流したの?」と聞かれれば、返事ができたのですが。その時は、日本では湯船は温まるためのもので、体を洗うところではないという説明を受け、ようやく理解できました。それにしても、私が入った後のお湯に、誰かが入ると考えただけで顔が赤くなりました(笑)。今でも、温泉には入りますが、家庭用の浴槽はほとんど使いません。

Q3: 日本の好きなところはどこですか？

好きなところは、調和された国であり、モラルが高いことですね。さすがに大和です。ところが「和」というのは、同一性が高く、互いの相違をなくそうとする。裏返せば、みんなが同じように物事を考え、異なるものがあると、それから逃げたり、気づかないふりをしようとする。ここが違和感を持つところ。つまり、日本について好きな所は、同時に嫌いな所でもあるのです。

Q4: どうしても馴染めない日本文化はありますか？

ビジネス上の儀礼ですね。例えば年賀状です。会社には、毎年印刷された形式だけの年賀状が数千枚も届きます。これは、大きな無駄だと思えます。

さらに嫌いなのは、「挨拶に伺います」という申し出です。こちらも忙しいですから、「挨拶」ではなく、訪問の目的を伝えてほしいのです。その内容によって、同席させる担当者を選んだり、こちらの

第2回 日本の営業文化への疑問をビジネスに

宋文洲 (Wen Zhou Song) さん

ソフトブレン株式会社代表取締役会長。
日本企業の非効率的な営業に疑問を持ち、より合理的かつ効率的な営業活動を可能にするソフトウェアの開発・販売を行う。著書に『やっぱり変だよ日本の営業』(日経BP企画)他。1963年、中国山東省生まれ。



準備もありますから。しかし「いえいえ、ただのご挨拶ですから」と言う。お互いに時間の無駄だと思うのですが…。僕も日本の文化は尊重したいですが、ビジネス社会に持ち込むのは、とても非効率的だと思います。こうした儀礼は、どの国にもあると思いますが、日本には少し多すぎますね。

Q5: 海外の日本語学習者に日本語学習のコツなどを。

私は何事によらず、現場主義なんです。会社の経営でも、現場に行ってお客さんの声を聞かずに、役員室の議論だけで事を進めようとする必ず失敗します。言葉の習得も同じです。言葉だけを覚えようするのは無意味です。日本人とのコミュニケーションの中で覚えることが大事だと思います。

より詳細な内容については下記ウェブサイトをご覧ください。

http://www.jpff.go.jp/j/japan_j/publish/tsushin/index.html

『日本語教育通信』 第52号

2005年5月発行

編集・発行 独立行政法人 国際交流基金
日本語事業部企画調整課

〒107-6021 東京都港区赤坂1-12-32
アーク森ビル21F

The Japan Foundation
Planning and Coordination Div.,
Japanese - Language Dept.

(Ark Mori Bldg. 21F, 1-12-32 Akasaka
Minato-ku, Tokyo 107-6021, Japan)

TEL. 03-5562-3525 FAX. 03-5562-3498

E-Mail fnjckt@jpf.go.jp

編集協力

財団法人 国際文化交流推進協会

Japan Association for Cultural Exchange

(ACE Japan)

(表紙イラスト: jane-tonntu) 古紙100%再生紙使用